

わおん通信

2017
秋号
vol.26



特集 子供にバトンを次世代中心の環境学習

CONTENTS

P2 - P3

子供にバトンを！
次世代中心の環境学習

P4 - P5

県内地域の取組
こどもピースフェスタ開催
教育の現場と地域活動がつながる“共育の場”
気象が知らせる地球温暖化
紀の川市民まつり
推進員 克ちゃんの
ああしたら こうなった 1 (全6回)

P6 県情報

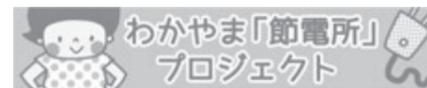
おもしろ環境まつり

P7 推進員さん訪問記②
なるほど ザ・ワード

P8 INFORMATION

INFORMATION

まもなくしめきり



スマートフォンから
応募 →



わかやま「節電所」プロジェクト2017 応募〆切10月31日(火)

今回はネットから応募！ ⇒ <https://wenet.info/save>

平成29年度「和歌山県地球温暖化防止活動推進員・養成講座」

開催期間：2017年11月～2018年3月 (応募期間：2018年2月28日(水)まで)

開催場所：和歌山市・紀の川市・有田川町・すさみ町・田辺市 (予定)

詳細：和歌山県地球温暖化防止活動推進センター webサイトで順次ご案内

⇒ <https://wenet.info/wp/> 「推進員養成講座」のバナーをクリック!

今年度は6回
開催予定です!

イベント情報 (地域協議会/推進員グループ/県センター 出展情報)

◆第26回 橋本市ふるさとよとこ探し ナチュラルブレイク

日時：2017年10月22日(日) 10:00～15:00

場所：橋本市・杉村公園 頂上広場

主催：橋本市ナチュラルブレイク実行委員会

◆有田川町どんどんまつり

日時：2017年10月22日(日) 10:00～15:00

場所：有田川町・花の里河川公園

主催：有田川町

◆ゆあさ愛・あいまつり

日時：2017年10月29日(日) 10:00～13:00

場所：湯浅町・湯浅スポーツセンター

主催：湯浅町人権推進室

◆有田川ふるさとまつり

日時：2017年11月5日(日) 10:00～15:00

場所：有田川町・ふるさとの川総合公園

主催：紀州有田商工会議所

◆第29回 かつらぎ町産業まつり

日程：2017年11月19日(日) 10:00～15:30

場所：かつらぎ町・かつらぎ公園グランド

主催：かつらぎ町産業まつり実行委員会

◆宮子姫みなとまつり

日時：2017年11月19日(日) 10:00～15:00

場所：御坊市・御坊港湾

主催：御坊市商工推進課

◆すこやか橋本 まなびの日

日程：2017年11月26日(日) 9:30～15:00

場所：橋本市・和歌山県立橋本体育館

主催：橋本市教育委員会

◆おもしろ環境まつり

日時：2017年12月2日(土) 10:00～15:00

場所：和歌山市・和歌山ビッグウエーブ

主催：おもしろ環境まつり実行委員会

あなたの活動をサポート わかやま推進員サイト イベント情報も随時更新

県センター通信

日差しも和らぎ、いよいよイベントシーズン突入です。今年は各地で開催されるイベントに引き続き、県内最大規模の「おもしろ環境まつり」を開催予定です。県内の環境に携わっている人々が、続々出展します。また、県内の推進員のみなさんのお披露目の場としても絶好の機会となっています。ぜひ一緒に盛り上げていきましょう。

2017 秋号 vol.26



発行/和歌山県環境生活総務課
〒640-8585 和歌山市小松原通1-1
TEL: 073-441-2670 FAX: 073-433-3590
mail: e0317001@pref.wakayama.lg.jp

編集・お問合わせ/和歌山県地球温暖化防止活動推進センター
〒641-0014 和歌山市毛見996-2
TEL: 073-499-4734 FAX: 073-499-4735
mail: wenet@vaw.ne.jp

松っちゃんの 推進員さん〇〇訪問記



広川町 山本 和哉 さん

有田郡広川町にお住まいの山本和哉さんは推進員第8期生で、現在は広川町立津木(つぎ)中学校の校長先生です。旧金屋町(現有田川町)生まれで、2歳で親の転勤により現在の広川町に移住、地元高校から宮城県仙台市の宮城教育大学へ進学、理科の中学校教諭として和歌山県に戻ってきました。特筆すべきは2009年4月から2年間、人事交流として県の環境生活総務課温暖化対策推進班主任として勤務した経験があること。当県センターへの様々な発注関連業務はもちろん、温暖化対策の講師として、また環境学習の専門家派遣や環境家計簿カレンダー、「企業の森」担当等に就任しました。

推進員への応募動機は、在任中に多くの環境問題関係者と接することで温暖化への問題意識を深めたこと、そして「自分なら生徒への環境教育から、温暖化対策に親を巻き込むことができる」と思ったからだといいます。推進員養成講座では、重栖前県センター長の話が素晴らしく、プレゼンの技能や話のテクニックに引きつけられたといいます。

推進員の活動としてはエコネット紀中の一員として御坊市や湯浅町・由良町・有田川町・広川町などでの啓発活動にはほとんど参加、ブースでの

パネル説明やアンケート、パンフレット配布、発電自転車体験のアシスト等に就任しています。また家庭では省エネ製品への転換やシャワーヘッド・LED等を取り入れて、家族で節電に取り組んでいるとのこと。そして学校では総合的な学習の時間に、温暖化の原因や対策としての省エネ機器やハイブリッドカーの話などを行っています。しかし最近では子供たちも温暖化について知っていることが多く、家庭での活動が期待されます。

さて、のどかで自然豊かな広川町津木地区は30年以上前から古紙やアルミ缶、布類などの資源回収を住民全員で行っているとのこと、環境問題には意識が高く、特に「自然豊かなホテルのまち」として津木中学校では生徒全員が水質調査や水生生物調査などに取り組んでホテルの研究保護活動に力を入れています。津木中学校には総理大臣賞など、その活動を讃える賞状が数多く飾られています。

山本さんは、先生として直接生徒に環境教育ができることが有難い、そして「快適に生活ができる地域環境を大事にしたい」と穏やかに語ってくれました。

なるほど サ・ワード

STOP温暖化・焦点の言葉

*地球温暖化をめぐる報道などで、いま焦点となっている言葉を簡単に解説します

線状降水帯とアウターバンド

今年7月に九州北部を襲った集中豪雨をはじめ、最近「これまでに経験したことがない」猛烈な雨が各地で観測されています。これに関連して天気予報などで「線状降水帯」という言葉を聞くようになりました。その実態は幅20~50km、長さ50~300kmの範囲で次々に発生して線状に並ぶ積乱雲群で、長時間にわたり地上に豪雨をもたらします。

線状降水帯が発生する条件は複雑ですが、最近よく発生し、また雨量が増えた背景には地球温暖化の影響があると考えられています。前述の九州北部豪雨での雨量は当初予報の数倍から十数倍に達し、従来の天気予報システムが通用しないことが明らかになりました。

たが、その後の解析で、海上の水蒸気量が5%増えるだけで線状降水帯がもたらす雨量は3倍以上になることがわかりました。地球温暖化による海水温上昇は蒸発量を増やし強風を呼ぶなどにより、線状降水帯の脅威を高めているのです。

台風を除く最近の集中豪雨の約6割が線状降水帯によるものとされていますが、台風でも渦巻の中心から200~600km付近の「アウターバンド」で線状降水帯はよく発生します。いずれにせよ、線状降水帯による豪雨は多くの人には未体験のリスクであり、人命を守るため、予報精度の向上とそれに基づく確で素早い対応が求められています。

特集 子供にバトンを! 次世代中心の環境学習

これまで和歌山県内での地球温暖化防止にむけた動きは、2005年に始まった推進員活動から数えて12年になります。

県内それぞれの地域で、独自の目標と積み重ね、多くの賛同や参加を経て今日に至っています。その中で「子供達に伝える」取組への一層の期待が高まっています。

今回の特集では「子供にバトンを!次世代中心の環境学習」について紹介します。

◆地域発!総合的な環境教育の場作りスタート

伊都・橋本地球温暖化対策協議会では、次世代を担う子どもたちに、地球温暖化や未来の地球について体験を通じて学ぶ「はしもとエコロジー学園」を平成28年度に設立し、「こどもエコチャレンジ教室」の環境教育を実施しています。

①活動報告

○平成28年度はリサイクルを中心としたクラフト教室を7回、食の安全の教室を2回、新エネ見学会を1回実施。最終回には「こどもエコ大臣の任命式」を行いました。親子を含めると延べ約400名が参加したことになり、子供だけでなく親に対する環境教育の場にもなっています。結果、参加した子供達に環境意識が芽生え、夏休みの自由研究に役立てたという子供もいました。参加者らが今後、持続可能な社会づくりのための一員として育っていく礎になったと考えています。

○今年29年度は、昨年度好評だったものを継続し、新たに靴下ハギレを利用した「エコマットづくり」、ソーラークッカーや空き缶を使った「里山サバイバル」教室等も実施して好評を得ています。



温暖化・自然保全をテーマに学習した後、親子で手づくり体験を楽しむ、「こどもエコチャレンジ教室」

○小学生への教室のPRとして、橋本市やかつらぎ町の教育委員会の協力、参加の難しい高野町からは夏休み中に番外教室からの依頼も受けています。また、活動スタッフとして市民や中学生、高校生のボランティアによる参加もあり、いろいろな分野で裾野の広がりが期待できる活動です。

<H28年度実績>

番外 8月20日 アロマ石けん手作り体験 (高野町で実施)

<H29年度実施・計画>

- 1回目 6月25日 エコキャンドルづくり体験 (キャンドルナイトの推奨)
- 2回目 7月9日 アロマ石けん手作り体験
- 3回目 7月23日 ランプシェードづくり体験 (LEDの学習)
- 4回目 8月5日 カラフルチョークづくり体験
- 5回目 8月6日 里山サバイバル教室
- 6回目 8月20日 エコマットづくり体験
- 7回目 9月10日 肉球エコたわしづくり体験
- 8回目 1月21日 オーガニック料理教室 (食の安全学習)・修了式
- 番外 8月19日 エコキャンドルづくり体験 (高野町で実施)



太陽光を集めてお湯を沸かそう

②成果報告

○平成28年9月27・28日に和歌山大学で開催された、「廃棄物資源循環学会」での市民展示や平成29年3月29日の橋本市の市民活動支援事業成果報告会で成果報告を行い好評を得ました。また、各自治体等で開催されているイベントに出展し、地球温暖化防止の啓発活動の場においても活動の成果を報告しています。

③今後の取組

○平成28年度に設立した子供たちの環境教育を実施する「エコロジー学園」は、体験を通じて環境について学ぶ絶好の機会として、来年の平成30年度以降も継続して実施していきたい考えです。

○今後の課題として、家庭・子供・親子を対象とした、「分かりやすい体験」を通して、地球温暖

化防止に向けた裾野の広い啓発活動を行うこと。参加者（学習者）が次年度には「スタッフ」として活躍してもらうことで、「エコの輪」が市民全体へと広がっていくことを考えたいと思います。（推進員 黒井 成男）



オーガニック料理教室開催

◆県内イベント始動

今年の12月2日に「おもしろ環境まつり」を開催します。このイベントは子供を中心に大人たちも一緒に楽しみ、そして学べる「体験」をメインにした企画です。開催にあたり、各協議会、推進員グループを中心に、NPO団体、民間事業者、財団、大学、県の代表者らによる「おもしろ環境まつり実行委員会」が9月8日に発足、本格的な準備が始まっています。

<5つのテーマで環境を感じ、考える>

会場は①地球温暖化（気候変動）②エネルギー③水／食と暮らす④廃棄物／リサイクル⑤生物多様性の5つのテーマで構成されます。

それぞれのテーマごとに、専門分野の団体や企業が出展。来場者は、手や身体を動かしたり、ものを作ったり、クイズやゲームに答えたりして、楽しみながら「今起きている身の回りのこと」について感じられる内容を予定しています。

そして、「今ある技術の現状を知り、将来どんな工夫が求められていくか」を一緒に考えてみる1日を目指します。

<3つの「ゼロ」でイベントそのものを「エコ」に>

「環境イベント＝環境負荷を抑えたイベント」という原点にたちかえり「3つのゼロ」を目指します。①廃棄物を極力ゼロに、②3R=リデュース・リ

ユース・リサイクルの工夫、③エネルギー使用を可能な限り少なくする。主催者、出展者、参加者それぞれが、協力し合いながら達成していく「チャレンジ・イベント」を目指しています。

<「約30団体+手づくり」の会場>

出展者は現在約30団体がエントリーされています。どのブースも「子供たちに伝える」工夫を凝らした内容を準備中です。

また「手づくり」をキーワードにした会場レイアウトが計画されています。取り壊しなどで廃材になってしまう障子やふすまを使ったパーテーションや、竹や自然物を使った巨大なオブジェが出現予定です。そして、来場者にも積極的に協力してイベントを盛り上げてもらうためのしかけなど、今までにありそうでなかった企画を策定中です。

<どんなバトンを渡すのか>

このイベントの最大の目標は「子供たちの心に残るイベントにする」ことです。会場づくりや準備に直接関わる人、イベントの案内や紹介など間接的に関わる人、県内すべての推進員をはじめ、このイベントに賛同する個人や団体が一致協力して、これからの和歌山の環境を担う子供たちに渡すバトンを作り上げるイメージを持って関わり、「おもしろ環境まつり」の目標を達成しましょう。

おもしろ環境まつり

子供も

わたしのまわりのいろんなこと
見る・さわる・感じてみる

大人も

- ◆環境に優しいエコなイベントを目指します！
- ◆なつかしさと手作り感あふれる会場レイアウト

平成29年**12月2日(土)**
午前10時から午後3時まで
会場：和歌山ビッグウエーブ

地球温暖化 (気候変動) コーナー

変な天気が増えてるけど
一体どうしたらいいの？

おもしろくてためになるクイズ・ゲーム・工作がいっぱい

水／食とくらす コーナー

食べ物や水はどこから来るの？
そしてどこへ行くの？

廃棄物／リサイクル(循環) コーナー

それって本当にごみなの？
分けると、また使えるね

エネルギーコーナー

わたしにもできた！
手づくりエネルギー

生物多様性コーナー

いろんな「いのち」を感じてみよう
わかやまに昔からいた生きもの



最大約4000点の
こどもエコチャレンジ
作品展示予定

「わかやまこどもエコチャレンジ事業」とは

県内全小学校の4年・5年・6年生を対象に、夏休みの期間を利用して、家族と一緒に「節電」「節水」「ごみ減量」等のエコ活動に取り組む事業です。家庭で実施できる工夫を凝らしたエコ活動が数多く紹介されています。



「おもしろ環境まつり」詳しくは 6ページへ



教えていただきました。特に、何気なく聞いている天気予報について、深い意味があり、日ごろ天気予報でいかにわかりやすく伝えていただけているのかも知りました。

第2部では、身近な気候変動の影響とその適応策についてグループワークを行い、発表を行いました。適応策について国、地域、個人レベルで、どのような取組ができるのか、みんなで話し合いができました。年代は10才から70才と幅広い年代でしたが、グループにおいて真剣な論議があり、共感の得られる大変実りのあるワークショップとなりました。



前後からの雨が心配されましたが、第1回目となる「こどもピースフェスタ」が開催

こどもピースフェスタ 開催

2017年7月30日
和歌山ビッグ愛

[和歌山県センター]

されました。このイベントは「子供達を中心に楽しくピースな未来に繋げる」ことを目的としており、子育て中のお父さん、お母さん達が企画・運営しています。

会場では、ステージやブースなどで様々な出し物が準備されました。わかやまJICAでは世界の国々の民族衣装を着る体験、県の男女共生推進センターでは絵本の貸し出しを行っていました。そして、子供店長によるフリーマーケットも多数出店し、会場はたくさんの人で賑わっていました。わかやま環境ネットワークも出展し、ペットボトルで雲を作る体験など、楽しみながら学んでもらえる内容を出しました。子供たちはポンツと大きな音に驚きつつ、ボトル内にできる水蒸気の様子を嬉しそうに観察していました。遊びながら学びの体験ができるイベント企画への参加を続けたいと思う1日でした。

(県センター 白井 達也)

紀の川市民まつり

2017年8月20日

[紀の川市地球温暖化対策協議会]

りました。今後とも、地球温暖化防止のためにCO₂の排出を減らしていくことは勿論ですが、いかに現状を把握して、適応していくかを考えていかなければならないと感じました。

(推進員 黒井成男)

毎年大勢集まる子供たち向けに、今年は自然エネルギーへの関心を持ってもらおうと、環境クイズに答えて見事正解した人に、ミニソーラーパネルを使った模型キットを渡す取組を行いました。キットを手にした子供らは、用意したワークスペースで推進員やその息子さんのサポートを受

教育の現場と地域活動が つながる“共育の場”

2017年7月31日 和歌山ビッグ愛
県・共育支援メニューフェア

[和歌山県センター]

今年で5回目となり、主催は和歌山県教育委員会・和歌山県で、趣旨は「ぎのくに共育コミュニティ」の取組を県内全域に展開するため、専門的な知識や技能を持つ企業、NPO等各種団体、国や県の機関・施設、大学等の方々と、県内の学校教育、社会教育、幼児教育関係者等が一堂に会し、気軽に意見交換できる場を設けて、支援内容に相互理解を深めるイベントです。

環境学習の内容と開催機会を増やすため、今年も和歌山県センターがブース出展し、

(推進員 城 保宏)



けながら一生懸命に組み立てていました。また、今年も自転車漕いで発電する体験コーナーが大人気。来場者は積極的に参加していました。「電気作るのってかなりしんどい！」と電気の大切さを実感したというコメントもありました。そして、来場者アンケート、クールチョイスの賛同についてもたくさんのお返答を得ました。楽しい会場の中で、毎日の暮らしへの関心づくりに効果のある機会として、引き続き行っていききたいと思えます。

(推進員 櫻村 健)



気象が知らせる 地球温暖化

2017年9月3日 高野口地区公民館
気候変動ワークショップ

[伊都・橋本地球温暖化対策協議会]

昨年引き続き推進員スタッフとして参加しました。出展内容は、太陽熱で調理できる「ソーラークッカー」やスターリングエンジンの模型などを展示。身近なエネルギーについて考え、温暖化対策の深化を目指していくものでした。

会場内は、趣旨に賛同する約50の団体が出展され、多種多様でそれぞれ特色あるものがかりでした。教育関係者だけでなく一般の方も来場可能でしたので、お互いに意見交換できる有意義な楽しいフェアとなりました。

奇しくも6年前の紀伊半島大水害の日に「気象の講演と気候変動のワークショップ」を橋本市の高野口地区公民館で県下から約50名の参加で実施することが出来ました。この企画は、「ゲリラ豪雨や猛暑があちらこちらで発生：最近気象がおかしいのでは？身近でどんなことが起こっているの？その対策はとれるの？」という観点から開催に至りました。

第1部は、お天気キャスターの吉村真希さんを講師として、天気予報の裏側から気象用語、地球温暖化の話まで、クイズを交えて非常にわかりやすく

ああしたら こうなった

6回シリーズ

推進員
克ちゃんの

エコハウスにしたらカミさんがやってきた！ ↑

<住みたい！と思えるCO₂ゼロの家>

熊野本宮に移住して5年目の2010年春、「日当たりのいい土地を買わないか」という話が持ち上がりました。ほぼ同時期に「ログハウスを建ててみない」という話も。「建てるなら当然紀州材ですよ。」と返したら、「それなら龍神の木があるよ」と工務店さん。

「偶然ってあるんだな。独り者でこれまで家を建てようなんて思ってなかったけど、今借りている古い家はいつ雨漏りしてもおかしくないなあ」・「よし、それなら真剣に検討してみよう、どうせやるなら、CO₂排

出ゼロの家にしよう」・「省エネの家って、我慢が必要で暮らしにくいってイメージがあるけど、新しい技術を使って、CO₂ゼロだけど皆が住んでみたいと思う家を目指そう」と、心の中で会話が進み、家づくり一人プロジェクトがスタートしました。

(次号に続く)

このコーナーでは推進員の方々のCO₂削減活動を募集しています。ぜひ、「私はこんな活動をしました」という声をお寄せください。